

甘くない、甘くない

## 越後 北ノ又川蛇子沢中俣

せっかくの寡雪の年なので、いつもは雪渓があるところに行く、ということで蛇子沢を希望した。田邊さんは前に左俣に行っていたので、中俣になった。正直今年目標であったザクロ谷が雨で行けなかったことで、まだこの週もモチベが下がっていた。そんな気分で幸か不幸か、かなり厳しい遡行となった。

【日程】

2016年10月1日(土)  
～10月2日(日)

【メンバー】

田邊(L)、萩原

【グレード】

4級

【地形図】

奥只見湖

【記】萩原

### 10月1日(土) :曇り

全国的に天気は良いとは言えず、トマも相次いで転進、中止となっていた。僕たちのところは大丈夫だろうという田邊さんの天気の読みで、特に転進等を考えることなく現地へ赴いた。

予報では朝は天気が良くないので、様子を見て少し遅い出発となった。これが後々に響いてくる…

入渓し、河原歩きが長いと勝手に思っていたが、すぐに滝が現れる。これは右から巻いて懸垂する。その後も滝が続くが、それなりに厳しくも特に問題なく遡行を進める。そして3段40mの滝に着いた。右岸のリッジが登れそうだが、その先のトラバースが大丈夫か見えない…が行くことにした。ザレザレの強傾斜で意外とシビアな登りだった。そして問題のトラバースだが、切れているように見える部分がいけるかどうか見えない。少なくともこれではいきたくない。上を見ると岩を少し登って灌木帯に出られそうだが、どうも気がのらない。というか怖い。仕方なく懸垂して降りていく…と、途中でトラバースのルートがいけそうなのが見えた。よっしゃ、行くことにした。結構怖かったが通過し、3段目は問題なく越えて終了。



3段 40m 滝 画像中央を登ってトラバース

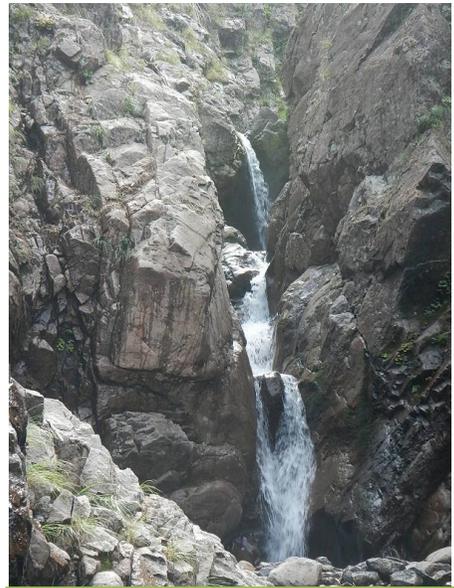
「無駄にかなり時間使っちゃった。まあちゃんと登ったんだしいいか」という気持ちで進み、左俣と分ける二俣に着いた。今まで記録はほぼ見ていなかったが、田邊さんがトマの中俣の記録を持ってきていたので、ここで見ることにした。記録よりも早く「これならあつという間に終わっちゃいますね～」なんて言っていた。しかし、地獄はこれからだった…

普段は雪渓で埋まっているであろうゴルジュに入り、滝を越えていく、すると登れない、いや登るとしたらかなり気合が入りそうな滝が出てきた。右岸から大高巻に入ろうとする。記録と同じようにもう尾根に上がるくらいの大高巻きでいいやと思って上がっていると、田邊さんが上がりすぎだと怒り出した。どうやらゴルジュに戻るらしい…正直、トラバースも含めかなり厳しそうに見えたので考えていなかった。しかし田邊さんの「俺は尾根歩きに来たんじゃない、沢登りに来たんだ。」という言葉に心を打たれ…トラバースのリードをお願いした。トラバースはちゃんと繋がっていたのでそこまで厳しいものではなかった。滝3つ分先に進み、そこから30m懸垂し、またゴルジュに戻ってきた。上からかなり切れ落ちていたのは見ていた。さてどうなるか…と少し進んだら、目の前に絶望的なゴルジュが現れた。見える限り登れなさそうな滝が3本かかり、視界は60m以上はある側壁で埋まる。ミチミチという擬音が聞こえてきそうなほどぎっしり詰まったゴルジュ。しかもこれがどれだけ続いているかわからない。ミッチ未知の道である。現実逃避してくだらないことを考えていてしまったが、もう15時である。なんとかここを脱出しないといけない…

巻くために滝の手前の右壁を小テラスまで登る。クライムダウンは行きも戻りも出来なさそうだ。ハーケン懸垂で川底に降りられそうだが、この先どこまでゴルジュが続くかわからない。どうしようか考え、もう傾斜のある側壁から逃げようと考え、リードの準備を始める。この取りつきでさえないの高さなので、ハーケンを打つ。うむ、効いてない。エイトを結んで壁を見直す。そしてピレイの準備を終えた田邊さんに叫ぶ。「…登れません!!!」



ギッシリです



ここから大高巻き。もっと小さく巻けたか…?

…壁を見直したらダメになってしまった。いけなくは、ないかもしれないが、本当に大丈夫だろうか。このハーケンが僕を止めてくれるイメージが湧かない。そもそもこの岩の部分を取ったら灌木がうっすらあるのが見えてはいるが、その先は大丈夫なのだろうか。などと考えていたらもう無理だった…すぐに懸垂して戻ることにする。田邊さんから懸垂し始めるが、途中で止まったり、何やらやっているとと思ったら、脇のルンゼに登り始めた。少し登ってコールがかかり、自分も後に続く。あまりルートに見えなく、怖かったが、確かに登れた。流石のルーファイ力である。合計2ピッチで灌木帯に逃げられた。この時点で僕は進んだ方がいいのか戻った方がいいのかわからなかったが、田邊さんは進むようなので進むことにする。1時間半ほどヤ

ブを漕いでいくと、ゴルジュの先の中俣出合にある4段80m大滝が目に入った。もう辺りは薄暗い。軽く絶望する。お座りビバークもやむなしか…と思われたが、田邊さんが川底に小さな平らのスペースを発見。降りることにする。もう完全に暗い中、ハーケン一枚で初めての1本懸垂。なんかミスったりしないでよかった。平らのところで眠れる嬉しさはあるが、前方すぐそこに滝、後方少しいったら滝、側壁は登れない、川幅は10mのお助けで両端を渡せるほどだ。夜中には強めの雨も降って、生きた心地はしなかった。

#### 10月2日（日）：晴れ

起きたときにはもう雨はあがっていた。増水も全くしていない。無事に朝を迎えられたというだけで最高の気分になる。睡眠時間が少なかったのに眠気は全くない。

前夜に僕は「敗退しましょう！僕は全然悔しくないです！（もう早くおうち帰りたい）」と話していたが、朝に大滝を見ると…なんとか越えられそう。それにここから戻る方がめんどくさいかもしれないし…ということをお互いに感じたのか、何も言わずにとりあえず偵察、そして進むことになった。

中俣出合にかかる大滝は、右俣に少し入ったところのルンゼの脇の岩稜から抜けることにする。本当はルンゼから抜けようと思ったが思ったよりもめんどくさそうでやめた。しかしこの岩部分もかなり厳しい。ボロボロでそれなりに傾斜がある。それになんだか気持ちが悪く…命からがら3ピッチほどで灌木帯まで上がることができた。ここから藪をこいで大滝落ち口のところに降りた。やっと終わった…ここからは急に易しくなり、登りやすい滝が続いてとても楽になる。グレード1級の沢のようだ。濃くない藪漕ぎをし、登山道に出て荒沢岳に到着、晴れやかな下山となった。

今回はかなり充実した山行となった。久々に厳しい沢に来てよかった。しかしメンタルはやはり大事だなあ。モチベが低いときは無理をしないことです。



4段 80m 滝



ゴルジュの幕場

【行程】

10/1 石泡橋 (8:10)  
～3段40m滝 (10:15) ～ゴル  
ジュ最狭部 (14:45) ～C1 (18:00)

10/2 C1 (6:00) ～3段20m滝  
(9:30) ～荒沢岳山頂 (12:20)  
～石泡橋 (16:00)

